



BOYS in MODE  
小栗旬  
×  
小出恵介

GINZA  
AUGUST  
定価  
630

8

# 発表! 秋のトレンド BIG 5

1. ノーマア・ブラック!
2. レディなフレアスカート復活
3. ジャケットスタイル新時代
4. 今年はニットの当たり年
5. ケープとポンチョをまず一枚

プラダがうたう  
最も新しいクラシック  
ランウェイからキャッ  
秋のビューティトレンド

ゆるモードの進化形  
“大人スウェット”一番

HAPPY MODE  
project  
ドリス ヴァン ノッデン  
圧巻のミリタリー・リュク

ニューオープンも続  
夏は食もハワイアン

的中率100%  
バッグ&シューズ・ヒット速報



## plantica

大栗忠久さん(左) 木村貴史さん(右)

●フラワーアート・ユニット「プランティカ」

おおくり・ただひさ/きむら・たかし ●共に1981年東京都出身。代表の木村さんは草月流に入門し3級師範を取得後、花装飾アシスタントを経て'06年に独立。幼なじみの大栗さんが加わり、華道から発展した花の世界をさらに広げている。二人の道具は、ニッパーやペンチなど大仕掛けに欠かせないものがずらり。

### ネクストエイジの花の世界には アレンジのヒントが隠れている。

もともと華道家として活躍する木村さんが、幼なじみの大栗さんに声をかけて生まれた「プランティカ」。まるで芸人コンビのプロフィールのようだが、今や海外メディアも注目する次世代アーティストだ。「一人の華道家としてはあくまでも正統派ですが、ユニットという新しい形にすると、どんどんイメージを発展させていけるんです」(木村)

確かに彼らの作品からは、他にはないダイナミックさと新しい感覚に衝撃を受ける。「それは華道から着想した、

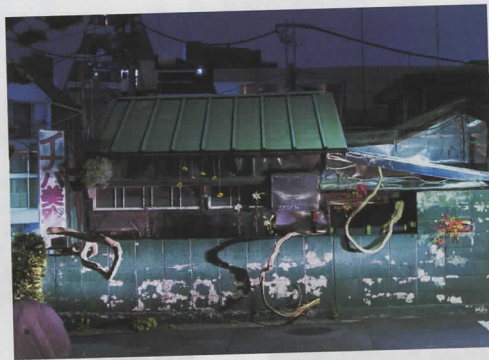
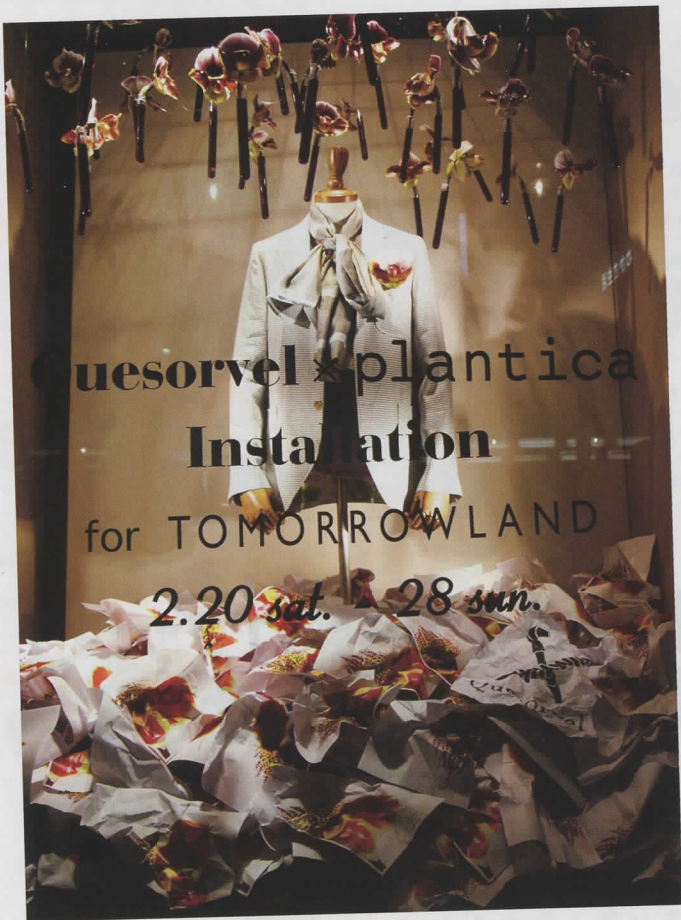
花のデザインを『空間』で捉えるという考え方」(大栗)

同じ種類の花をグルーピングしてスペースを埋めたり、花を入れたガラスの花器を積み重ねたり。視点と発想を変えて生まれた、まさに新しい花の世界である。

「でも花は生き物だから、人間の自我を押し通せないし、花にも顔があつて、角度で美しさも違うんです」(木村)

花を知ったうえで生まれる斬新な発想。そこから、身近な花のアレンジのヒントをもらせるかもしれない。

オーガニックをテーマに、グリーンをイメージした作品。花や植物を種類ごとにグルーピングしつつ、トータルでひとつにまとめているのが特徴的だ。そして何よりも、奥行きを感じさせる構成が、プランティカらしさである。



# Works

上：廃屋を利用した一夜限りのインスタレーション。「StReeT FloWer GRaFFiTi @ SHibuYa」 下：赤い花の入ったガラスペーを規則的に重ねた作品は母の日のためのもの。グラフィカルな配置と花の生っぽさが独特の雰囲気。「crazy love for Mother」 左：トゥモローランド京都店のウィンドウディスプレイ。彼らの作品等は[www.plantica.net](http://www.plantica.net)にて。

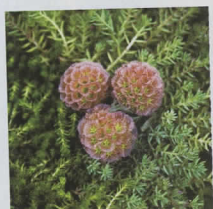


フォトグラファーやスタイリスト、ヘア＆メイクの友人たちと一緒に、作品作りのためのスタジオ撮影。ケヤキの古木をベースに、つつじ、楓を装飾した彼らの作品は、モデルカットのバックに使用。ドラマティックな空気感が写真からも伝わってくる。



©Hideyuki Seta

# Shooting



【ステルンクーゲル】



【スズメウリ】



【パフィオ】

## Favorite

左：スカピオサが咲き終わった後の実。名はドイツ語で「星の球」を表す。中：小さなスイカのようにキュートなウリ。沖縄から空輸で取り寄せ。右：袋状の花弁が食虫植物を思わせる、不思議な形が人気の理由。